

6
2026

三重病院

ニュースレター

news letter vol.317

- 01 日本小児臨床アレルギー学会学術大会を開催します
- 02 教えて菅田先生！「ヒトメタニューモウイルス」
第129回日本小児科学会学術集会に参加してきました
- 03 ツウちゃんの病院探検(放射線科)
2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
- 04 5病棟の生活のひとコマ
異動のごあいさつ
- 05 通所支援事業のひとコマ
糖尿病ワンポイントアドバイスNo.23
- 06 病院からのお願い／外来診察のご案内

第42回

日本小児臨床アレルギー学会学術大会を 開催します

つながる医療、つなぐ未来へ

2026年7月11日(土)・12日(日)に、名古屋市のウイングあいちで「第42回日本小児臨床アレルギー学会学術大会」を開催します。今回、当院臨床研究部が学会事務局を担当し、私が大会長を務めさせていただきます。大会テーマは「つながる医療、つなぐ未来—小児アレルギー診療のこれまでとこれから—」です。

小児アレルギー診療は、この数十年で大きく変化しました。かつては、喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーのいずれにおいても、治療法や考え方が限られていた時代がありました。現在では、診療ガイドラインの整備、新しい薬剤や治療法の登場により、多くの子どもたちがより良い状態を目指せるようになっていきます。

しかし、アレルギー診療の目標は、単に検査値を改善したり、薬を使用したりすることだけではありません。子どもたちが家庭、保育園・幼稚園、学校、地域で安心して生活し、自分らしく成長していくことを支えることが重要です。そのためには、医師だけでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、など、多職種が連携し、患者さんご家族の生活に寄り添う医療を実践していく必要があります。

本大会では、小児喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシー対応、栄養指導、患者支援、医療情報発信など、日常診療に直結する幅広いテーマを取り上げます。講演やシンポジウムに加え、吸入指導、緊急時対

の実践的なハンズオンセミナーも企画しており、明日からの診療や支援に活かせる学びの場となることを目指しています。

また、7月12日(日)午後には、市民公開講座「一医療と市民をつなぐ」を開催します。食物アレルギーのあるお子さんが、食品パッケージを読み、自分で選べる力を育てること、外食や中食を利用するとき不安を減らすための現実的な工夫、そして小児アレルギー疾患についてよくある誤解と正しい知識を取り上げます。参加費は無料です。アレルギーがあると、「何を食べてよいのか」「外で食べる時にどう伝えればよいのか」「どこまで心配すればよいのか」と迷う場面が少なくありません。子どもが成長するにつれて、保護者がすべてを管理する段階から、本人が自分の体を理解し、周囲に伝え、自分で判断する段階へと少しずつ移っていきます。市民公開講座では、その一歩を支えるために、患者さんやご家族が日常生活の中で実際に使える知識を共有したいと考えています。

三重病院は、これまで小児アレルギー診療、臨床研究、患者さん・ご家族への支援に取り組んできました。今回の学術大会が、医療者同士の学びにとどまらず、地域の皆さま、患者さんご家族、そして医療をつなぐ機会となることを願っています。多くの皆さまのご参加とご支援を心よりお願い申し上げます。

(臨床研究部長 長尾 みづほ)

